

香港・公共交通对策特別委员会審查概要報告書

委員長 高畠 義一

- | | | | | | | | | | |
|-----|-------|-------------------|----------|----|-----|----|----|----|--|
| I | 開催年月日 | 令和3年8月3日（火） | | | | | | | |
| II | 会議時間 | 午前10時00分～午前10時25分 | | | | | | | |
| III | 出席者 | 〔委員〕 | ◎高島 | 義一 | ○石須 | 大雄 | 高瀬 | 充子 | |
| | | | 筏井 | 哲治 | 酒井 | 善広 | 横田 | 誠二 | |
| | | | 曾田 | 康司 | | | | | |
| | | 〔説明員〕 | 別紙名簿のとおり | | | | | | |
| | | 〔委員外議員〕 | なし | | | | | | |
| | | 〔事務局職員〕 | 西本 | 幸夫 | 池守 | 凡子 | 宮崎 | 篤生 | |
| | | 〔傍聴者〕 | なし | | | | | | |

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔市長政策部〕

。福岡駅前地区移動等円滑化基本構想について

〈 委員から、次の質疑等があった。 〉

(以下、質疑・質問の内容は「○」、答弁の内容は「△」で表示)

【福岡駅前地区移動等円滑化基本構想について】

- 今後のスケジュールで、10月のまち歩き点検、関係団体ヒアリングにはどのような団体が含まれるのか。
- △ まず、基本構想の策定推進協議会においては、関係諸団体の方に参加いただき基本構想の策定を進める。協議会には老人クラブ連合会、身体障害者協会の方など福祉関連の方々もいることから高齢者や身体の不自由な方が施設利用やまちを歩く際に、関係の皆様とともに段差等の有無がないか確認をさせていただくと

というような作業になると考えている。

- バリアフリーという観点から、地域の高齢者、障がい者や関係団体の意見をしっかりと受けとめて進めていただきたい。(要望)

〔産業振興部〕

- 伏木富山港クルーズ客船入港実績及び予定について

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〔都市創造部〕

- 伏木港の整備状況について

【伏木港の整備状況について】

- バイオマス発電所が試験的に稼働しているということで、その燃料となるチップは天候が晴れていないと船から降ろせないと仄聞した。これによって様々な船舶の入港や岸壁での荷下ろしに影響はないのか。また、これらを踏まえた伏木港の今後の対応、整備方針は。

△ バイオマス発電所は6月に試運転を開始し、10月から本格稼働の予定と聞いている。6月の中旬に初めて1万トンクラスの貨物船が入ってきている。ご指摘のとおり、燃料はペレットを使用しており、濡らすことができないため、荷降しは天気が晴れの日、時間帯に限られる。順調であれば3日程度で降ろせるが、悪天候が続けば、しばらく沖待ちといったことも考えられる。燃料となるペレットの量は年間20万トン程度使用すると伺っており、船の大きさにもよるが、入港回数10数回程度と聞いている。また、入港に伴い、時間、岸壁の使用の頻度の点で混雑するのではとのご指摘については、これまでの貨物取扱量から20万トン分単純に増えることになるが、どれくらいの頻度で沖待ちが発生するのか、あるいは岸壁が埋まった状態になるのかということについては、この後、本格稼働が始まって、しばらく様子を見たうえで対応していく必要があると考える。また、背後地の利用が進んできていることも契機として、次の展開として、港湾の利用がスムーズにいくよう、更なる港湾整備促進について要望等を行っていききたい。

2 その他

〈 委員から、次の質疑があった。 〉

- 猛暑が原因で架線の断線やレールのゆがみなど、全国的な事故事例を踏まえ、万葉線やJR城端線・氷見線において、安全運転の検討・対策はどのようにされているのか。

- △ 鉄道事業者においては、日常点検等日々行っているが、先般新聞報道にもあった城端線の長時間の運休については、レールのつなぎ目部分にある絶縁体がレール等に外圧が加わったことにより破損し、高温によってレールが伸びたことで異常電流が流れ、信号機の安全装置が作動したことによるものである。その結果、異常を解消するため適切な措置に時間がかかったという状況である。その後、JRにおいては、通常点検に加えて、ゴールデンウィークあるいはお盆などの多客期間でも、事前の点検を実施する報告を受けている。また、今般の事象を受け、レールのつなぎ目部分についても、重点的に点検を行うと伺っている。本市としては、JRに対し安全対策に万全を期していただくよう、再度申し入れをしたところである。また、万葉線においては、脱線防止ガードの設置等の対策を実施するほか、点検、散水、速度制限などを設けて運行しているところである。引き続き、日常点検はもとより必要な対策を講じながら、市民の皆様の足の安全の確保と運行に努めてまいりたい。
- 昨年、高岡市民の交通実態に関するアンケート調査を実施されている。コミュニティバス運行を求める声や高齢者のための交通手段の確保を求める声も寄せられている。スピーディに具体化を求めたいが、市民の声やアンケート結果をどのように政策に生かすのか。
- △ 本市では、地域の特性に応じて、効率的に将来にわたり持続可能な交通システムを確立することが望ましいと考えている。令和3年度は、より具体的に地域に密着した移動ニーズの把握に努めていきたいと考えており、そのための支援制度を設けている。実際、いくつかの地域で取り組みが進められているところであるが、調査を行った地域においては、「現在は車の運転ができるが、将来、免許返納をした場合に、公共交通が必要だ」というような意見が多くあった。一方で、「子供の数が減り自家用車で送迎するようになり、バス路線の廃止は仕方がない」という意見もいただいている。また、高齢者の足という視点では、「何らかの公共交通に係るサービスを導入するなら協力したい」というような意見もいただいている。市としては、これらの地域の声を生かしながら、地域とともに実情に応じた運行形態、あるいは負担のあり方について、お話をさせていただきながら、検討を進めてまいりたい。
- 令和3年度に実施の移動ニーズの把握調査は、どういう点に重点を置くのか。
- △ 令和2年度の調査は、広く市民の方々から意見を伺うという視点で実施した。令和3年度はさらに踏み込んで、提案している地域、あるいは相談をいただいている地区と連携し、具体の地区や地域の需要動向等も踏まえ、アンケート調査を実施している。

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

[市長政策部]

。高速バスに係る支援事業の期間延長について

〈 委員から次の質疑があった。 〉

【高速バスに係る支援事業の期間延長について】

- 期間延長に伴う予算の財源は。
- △ 地方創生臨時交付金を財源としている。
- 高岡砺波スマートインター近くの高速バス利用者用駐車場の利用状況は。また、コロナの発生前と発生後で利用状況に差があるのか。
- △ 数字を精査し、後ほど回答する。

【文書による回答内容】

高岡高速バスターミナル（高岡砺波スマートインター）を発着する高速バスの利用者数について、平成 30 年度：69,363 人、令和元年度：66,454 人、令和 2 年度：9,162 人。なお、利用者数については高岡高速バスターミナル利用者を含む全体の利用者数。また、仙台便についてはコロナ前後で約 50%程度の減少を確認している。

現在の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、今年度の本委員会の視察の中止を了承

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

港湾・公共交通対策特別委員会 当局説明員（11名）

副市長	河 村 幹 治		
市長政策部長	鶴 谷 俊 幸	都市創造部長	赤 阪 忠 良
市長政策部次長 都市経営課長・広域連携推進室長	久 郷 聡	都市創造部次長	澤 徹
総合交通課長	今 方 順 哉	都市創造部次長 参事	竹 内 悟
		土木維持課長	中 出 裕 嗣
産業振興部長	福 田 直 之		
産業振興部次長	柳 原 隆		
産業振興部参事（兼務）	竹 内 悟		
みなと振興課長	氷 見 和 人		

※R3年度委員会では、新型コロナウイルス感染防止対策のため、入室を最小限に制限。